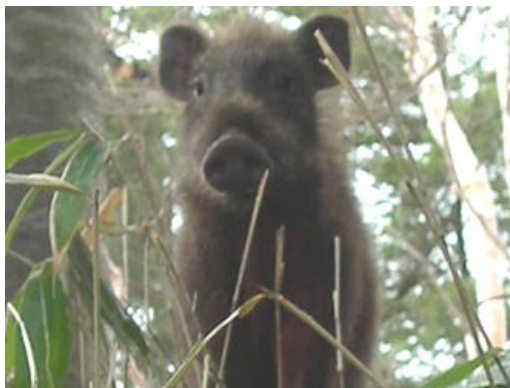


檜尾岳

(第1日目) くもり

前年の秋に行った檜尾尾根、積雪期にも来てみたいと思いながら帰ったが、早くも実現。前の週に行った、同じく中央アルプスの烏帽子岳の雪の状態があまりに悪かったのが不安に思っていたが、残念ながら的中。腰まで埋まる踏み抜き地獄で樹林帯はまったく進まず、予定していた木曽駒までの縦走は諦める。樹林帯下部は笹が出ていてルート不明瞭。トレースもつかないので、帰りのために赤テープをつけながら進むが途中でテープを落として紛失する。笹の中から突然、子供の猪が現れる。初めて見るが、意外に顔が細いと思った。



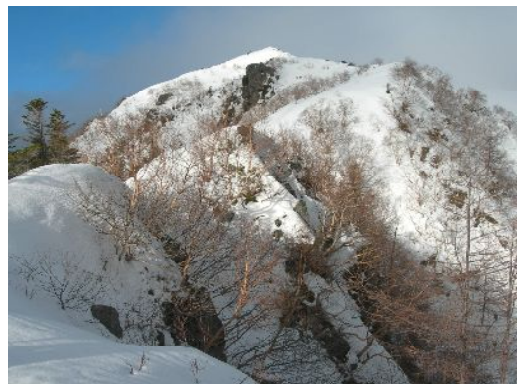
予定していた檜尾岳避難小屋までは到底至らず、2400m付近のジャンクションピークにテントを張る。木曽駒方面に展望の開けたいいテン場だった。無雪期に

4時間で登ったルートなのに、8時間ちかくかけても山頂にたどり着けないとは…。雪をなめたらあかん。

(タイム) 菅ノ台B T=7:38 檜尾橋～11:18 赤沢の頭～15:20 テント場

(第2日目) くもり

スタートしてしばらくは細い尾根を進む。森林限界間近でもう踏み抜きはない。1ピッチ進んだところで夏のクサリ場。細いスノーリッジを下るので、不安定な雪でもあるし、ロープを出す。尾根が細いところは樹林に入ると踏み抜き、雪に埋まりながら進む。木曽駒側はストンと落ちていて、雪庇状に張り出しているところもあり要注意。



森林限界に出ると、なだらかな白い尾根が広がりすごくきれい。しかし、ずっと目指して登っていたピークの向こうに、真っ白で威厳に満ちたピークが見えたとき、ああやっぱり…と思う。あっちが本当に目指すピークなんだよな～。そんなにラクなわけないけど、いつもラクなほうに期待を持ってしまう…まだ遠い。

白一色の景色になってきたとき、可愛い形の避難小屋が見えてくる。そこで休憩を取りながら、前に雪崩講習会で学んだ雪柱の掘り出しや雪質の観察を実践してみる。



檜尾岳の斜面は広大で、雪崩の跡も見える。稜線にはまだ明らかな雪底が残り、ここは冬に登るのはちょっと難しいかな…と思った。ガレの横の、なんとなく高くなっているラインを真っ直ぐに上って行く。最後は雪底の崩れたところから稜線に上がると、目の前に山頂標識があった。



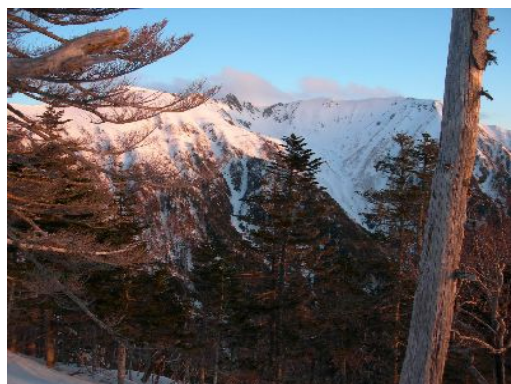
この頃からガスが出始めるが、辛うじガスの切れ間に見える縦走路は、雪底が張り出し、アップダウンがあって厳しそ

うだが、いつかは歩いてみたい。



1時間ほどでテント場に戻り、テントを撤収して下山を開始する。雪の多い部分は昨日のラッセルの跡を下るが、やがて笹の出ているあたりにきて赤テープも見当らなくなり、踏み跡もなく案の定、ロストする。しかしなんとかコンパスと地形図とで見当をつけて下って行くと踏み跡に合流、登山口まで無事にたどり着いた。

(タイム) 5:44 テント場～8:01 檜尾岳避難小屋～8:54 檜尾岳～10:16 テント場～12:27 赤沢の頭～14:19 登山口



テント場から見た千畳敷カールと宝剣岳